

# 経済・金融 フラッシュ

## 12月日銀決定会合:

物価ゼロ%以下のマイナスの値は許容していない、「物価安定の理解」の明確化

経済調査部門 主任研究員 矢嶋 康次

TEL:03-3512-1837 E-mail: yyajima@nli-research.co.jp

### 1. 円高、デフレで不透明感は強まるが、景気の現状「持ち直している」を維持、日銀は物価マイナスを許容していない、広義の時間軸を導入

日銀は17・18日開いた金融政策決定会合で、政策金利の誘導目標を0.1%前後に据え置くことを全員一致で決定した。円高やデフレが進行する景気の現状については、「持ち直している」との判断を維持した。

日銀 景気判断・見通し(黄色は上方修正を示す)

	現状
2009年12月	(据え置き)
2009年11月	景気は持ち直している
2009年10月	景気は持ち直しつつある
2009年9月	景気は持ち直しに転じつつある。
2009年8月	(据え置き)
2009年7月	景気は下げ止まっている。
2009年6月	景気は大幅に悪化したあとに下げ止まりつつある。
2009年5月	景気は悪化を続けているが、内外の在庫調整の進捗を背景に、輸出や生産は下げ止まりつつある。
2009年4月	(据え置き)
2009年3月	(据え置き)
2009年2月	(据え置き)
2009年1月	景気は大幅に悪化している。

今回サプライズは、「中長期的な物価安定の理解」を示し、その中で「委員会としてゼロ%以下のマイナスの値は許容していない」ことを表明したことだ。広義の時間軸導入と考えていいだろう。

事前予想では、今回の会合は据え置き、今後は事態が悪化すれば日銀は追加策を打ち出すとの見方が強かった。つまり12/1日に臨時で策を打ち出したが、今後も「受身」になるとの見方だった。

今回物価マイナスを許容しないというメッセージを市場に示すことで、日銀は受身ではなく、積極的に緩和策を打ち続けるとの見方をさせたかったのだろう。

今後追加緩和策としては、自然な姿としては12/1日に導入した新型オペの拡充だろう。現在の10兆円の増額や、期間3ヶ月のオペの期間延長決定などは比較的ハードルが低いように思われる。

その他、ターム物金利の低め誘導、日銀券ルールの見直しを行い長期国債買取増額、外債購入、さらなる時間軸強化なども検討されるだろうが、これらは事態の深刻度合いによる。いずれにせよデフレファイターを宣言した日銀にとって、今後は踏み込んだ量的金融緩和をどう実現するのか、大胆かつ具体的な手段を示す局面になってきた。

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。